（様式６）

経営改善目標の達成に向けた取組状況

１　法人の概要（令和６年７月１日現在）

法人名	（公財）神奈川文学振興会				
設立年月日	昭和57年４月１日 (名称変更：平成23年４月１日)	代表者名	理事長　荻野　安奈		
所在地	横浜市中区山手町110	電話番号	045-622-6666		
基本財産等	110,000,000　円	県出資額	53,000,000　円	県出資率	48.2　％

２　法人運営における現状の課題

○当財団は指定管理者として神奈川近代文学館の運営に当たっている。令和５年度は、特別展を２回、企画展を２回開催した。また、冬季には、常設展(シリーズ展)を２回開催した。利用料金収入、事業収入とも好調であったが、施設の老朽化による修繕工事の増加、諸物価高騰の影響による経費の増加に増収を充てた。今後も同様の状況が続くと予想されることから、従来どおりに事業を行うためには、一層の経費節減と収益増のための方策が必要となり、難しい舵取りが求められる。
○利用料金収入のうち、会議室利用料は、令和４年度までの県の要請による会議室新規予約受付停止等により減少した会議室利用が回復せず、コロナ禍前（平成30年度）の51%となっている。利用促進のため、小会議室内へのWi-Fi機器の試験設置を当面継続することとした。今後も設備備品の充実を図り、利便性を高めていきたい。
○荷物用エレベータ更新のための現地工事は、令和６年度冬季に決定した。騒音対策として展示室の休室を行う予定。会議室の利用制限については、騒音による影響を見極めた上で実施したい。

３　経営改善目標の達成に向けた取組実績等

＊　項目ごとに、下段の（　）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【県民サービスの向上】

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
1	利用者数（展示・閲覧・会議室利用） (下段は展示関連動画等閲覧数)	人	29,787 (48,300)	57,983 (48,400)	62,557 (60,400)	(60,600)	(60,800)	A
		件	7,066 (2,600)	5,295 (2,700)	2,912 (2,800)	(2,900)	(3,000)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
展覧会の総観覧者数は44,677人となり、４年度に続きコロナ禍前の好調な水準を維持することができた。来館者を増やす試みとして、オンラインゲームやコミックスとのコラボを行い、多くの若年層を呼び込むことにも成功した。また、閲覧室利者数については、平成30年度比114%となった。「ＮＤＬサーチ」（国会図書館の蔵書検索システム）でのデータ連携により資料の活用が進んだことが要因と考えられる。一方、会議室の利用者数は依然として回復せず、平成30年度の51%に留まった。	引き続き、様々な取組により、来館利用者数の維持に努めたい。また、展示関連動画等の告知に努め、閲覧数を伸ばしていきたい。会議室利用者数については、利用形態の変化に応じた設備備品の充実を図り、利便性を高めることで、利用増につなげたい。
備考	

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
2	若年層向け行事参加者数 (下段はオンラインによる視聴数)	人	375 (800)	752 (850)	1,079 (900)	(950)	(1,000)	B
		件	552 (170)	212 (190)	56 (210)	(230)	(250)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
高等学校文化連盟図書専門部会との共催行事に加え、文豪ストレイドッグスコラボ講演会を実施、かなぶんキッズクラブの人気日程での映画上映を１日２回としたことなどにより、参加者数が増加した。紙芝居のオンライン配信は、新たなコンテンツ追加が困難ななため、今後の視聴数に課題が残る。	新たな子ども向けデジタルコンテンツ等、対面のイベント以外にも事業の可能性を探りたい。

備考
３年度に公開した「佐藤さとる展―『コロボックル物語』とともに―」展覧会ダイジェストは、５年度中に343件の視聴があった。

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
3	パネル巡回文学展の実施校数 (下段は内、データ版によるパネル展利用数)	校(館)	28 (16)	30 (16)	28 (16)	(16)	(16)	A
		校(館)	10 (7)	11 (7)	5 (7)	(7)	(7)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
県内を中心に中・高等学校の図書室等へのパネル文学展の巡回を実施した。従来のパネル展の利用に加え、学校でのデータ版の活用も呼び掛けているが、データ版では実施校が目標に達しなかった。感染状況の収束により、実際のパネルを活用する傾向が強くなっていると考えられる。	引き続き、学校に向けてのパネル文学展広報の充実を図り、利用数の維持に努めるほか、公共図書館等にも利用を呼び掛けたい。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
4	ＨＰアクセス数	件	192,549 (127,500)	282,258 (128,000)	343,391 (172,000)	(172,500)	(173,000)	A

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
ＨＰ、ＳＮＳ等での発信に加え、引き続き、新たなコンテンツ公開も継続している。12月には中島敦直筆資料デジタルアーカイブを公開し、大きく報道された。また、展覧会でオンラインゲームやコミックスとのコラボ企画を行ったこともアクセス数増につながっていると考える。	今後も新たにコンテンツを公開し、ＨＰ、ＳＮＳ等での発信に加え、動画コンテンツ、資料アーカイブ等の充実も図っていきたい。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
5	「神奈川近代文学館友の会」の会員数 (下段はメールマガジン登録者数)	人	848 (850)	1,033 (900)	990 (950)	(1,000)	(1,000)	A
		人	1,728 (1,725)	1,865 (1,775)	1,989 (1,825)	(1,875)	(1,925)	

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
展示観覧者数の増加と呼応して４年度からは友の会会員数も回復の兆しが見られ、５年度も目標の会員数に達することができた。また、初の試みとして、小津安二郎展では閉館後、展示室内で実際に展示物を前に行う会員限定のギャラリートークを、冬季の常設展会期中には、読書会を開催した。メールマガジン登録者数も目標を達成することができた。	引き続き、友の会文学散歩等への参加やイベントチケット確保の利便性などの特典をアピールし、会員数の維持、新規獲得に努めたい。また、メールマガジンについては、公式noteでメールマガジンの内容と重なる機関紙記事抜粋の公開を開始したことにより、メールマガジンに登録せず、公式noteで閲覧する方も増えたと考えられる。今後は新たな枠組に対応した運営を検討していきたい。

備考

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
1	利用料金収入	千円	7,654 (8,059)	14,674 (8,259)	15,463 (8,559)	(8,859)	(9,259)	A

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
各展覧会の好調により観覧料収入は４年度に続きコロナ禍前の好調な水準を維持することができた。会議室の利用件数は回復せず、会議室使用料収入は平成30年度の約54%となっている	引き続き利用料金収入の回復基調維持に努めたい。また、会議室使用料収入については、設備備品の充実を図り、利便性を高めることが必要であると考える。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
2	事業収入	千円	4,327 (5,530)	6,351 (5,830)	7,204 (6,130)	(6,430)	(6,630)	A

自己評価（目標未達の場合はその理由）	今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）
各展覧会の好調により刊行物販売収入が増加した。また、開館40周年に向けた連続イベントを実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止策としては、5月7日迄に実施のイベントについて定員を95%までとした。	引き続き、各種イベントの実施により収入の確保に努めたい。

備考

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
3	年間電力使用量	kwh	707,648 (781,300)	682,453 (781,100)	670,917 (780,900)	(780,700)	(780,500)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために必要な換気量に配慮しつつ、節電に努めた。４年度に続き、県の計画修繕工事により、空調機関係の設備更新が行われたことでも一定の節電効果を得られている。				今後も節電対策を進めたい。			
	備考							

No.	項目	単位	３年度	４年度	５年度	６年度	７年度	５年度自己評価
4	年間電力料金	千円	17,902 (19,350)	23,143 (19,300)	19,120 (19,250)	(19,200)	(19,150)	A
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	年間電力使用量の削減目標を達成した。また、最大電力使用量に留意することで、料金の抑制に努めた。				今後も照明のＬＥＤ化等の節電対策を進めるとともに、空調機等の運転設定により電力料金の節減を図りたい。			
	備考							

４　取組実績等についての総括（法人）

○春の「生誕120年没後60年小津安二郎展」、秋の「没後30年井伏鱒二展アチラコチラデブンガクカタル」の２回の特別展を行った。また、常設展「文学の森へ　神奈川と作家たち」第２部では大佛次郎記念館と協働し、コーナー展示「没後50年 大佛次郎展－戦後の仕事－」を併設した。各展覧会で多くの来館者があり、年間展示入館者数は44,677人となり、令和４年度に続き４万人台となった。オンラインゲームやコミックスとのコラボにより、若年層の来館を増やすことができた。今後も利用者数の更なる増加に努めたい。
○展示企画に連動した講演会等の行事、児童向け行事を含む文字・活字文化振興事業などのイベントを実施した。高等学校文化連盟図書専門部との協力事業も活発に行い、文字・活字文化振興の一つであるパネル文学展巡回事業では、令和２年度から引き続き、データ版による提供も行った。今後も、中・高・大学などの教育機関、類似施設、出版社、企業団体との連携を図り、若年層を中心にあらゆる世代へ周知を行い、利用者数の更なる増加と知名度の向上に努めたい。
○県内小・中・高等学校への巡回パネル文学展については、パネル文学展の提供数を維持することができた。秋の「井伏鱒二展」ではオンラインゲームと、冬の常設展「文学の森へ　神奈川と作家たち」第３部ではコミックスとのコラボを行い、多くの若年層を呼び込むことにも成功した。また、ワークシートを提供することで、展示をじっくり観てもらうことができた。引き続き、高等学校文化連盟図書専門部会や小・中・高校との連携を図り、若年層のリピーターを増やしていきたい。
○外部組織と提携した講演会や朗読会、文芸映画会などを展覧会と連動させて共催し、展示動員を図りつつ、生涯学習支援の活動にも力を注ぎたい。

５　取組実績等についての総括（所管課）

〇令和５年度は、新型コロナウイルス感染症が５月に５類に移行し、以降ほぼ平常通り事業を行ったこともあり、全体の利用者数は目標を達成した。生活様式の変化等により会議室利用者数はコロナ禍前の水準には達していないため、会議室利用者を増やすための取組が今後の課題である。
〇秋の特別展と２月からの常設展で若者に人気があるオンラインゲームやコミックスとのコラボを行い、利用者数を大きくのばした。コミックス等とのコラボ人気は高く、若年層の来館に繋がっている、従来の来館者層との調和を保つために様々な配慮がなされているが、引き続きこの点には気を配りながら取組を継続してほしい。
〇所蔵資料の活用が文学館の重要な使命であるという点から、Webで閲覧可能な中島敦直筆資料デジタルアーカイブの公開や、「ＮＤＬサーチ（国会図書館の蔵書検索システム）」とのデータ連携により、所蔵資料が広く利用者に認知され、閲覧室の利用が増えるなど、資料の活用が進んだことは高く評価できる。
〇井伏鱒二展では、初めてチャットシステムを取り入れたオンラインイベントを行い、参加者及び展覧会開催期間中に公開した動画の視聴者数の合計が2,090人に達した。ＨＰ閲覧数も目標を達成し、Ｘ（旧Twitter）のフォロワー数も8,000を越えるなど数を増やしていることから、Webを活用した積極的な取組の展開も期待される。
〇前年度のチラー更新工事により、節電効果が高まったことにより、電力に係る目標を達成している。引き続き、照明のＬＥＤ化など節電対策に取り組みながら、様々な面で経費削減に向けた工夫を続けてもらいたい。